

第2回 今治市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和7年2月19日(水) 14時00分～16時00分

2 会 場 今治市役所 第2別館 11階 特別会議室3・4号

3 内 容

1 開 会

2 議 事

(1) 今治市総合計画の策定に係る各種調査結果について

(2) 今治市総合計画の将来都市像の検討状況について

(3) 今治市総合計画の施策体系の検討状況について

(4) 今治市人口ビジョン(案)について

(5) 今後の開催予定について

3 閉 会

4 出席者 <委 員> (順不同、敬称は省略)

菊川 堅吾 増田 茂樹 黒田 周子

長野 和幸 松村 暢彦 神林 康弘

村上 浩一 渡部 浩忠 原 竜也

西原孝太郎 阿部秀二郎 藤倉 晶子

※欠席者7名

<事務局>

総合政策部

部長 森 聖二

市民が真ん中課

課長 馬越 啓之、課長補佐 尾崎 大輔

主事 安部 昂大

(委託業者) 有限責任監査法人トーマツ 大阪事務所

黒山 祐嗣、三原 佑馬

第2回今治市総合計画審議会 会議録 ※内容1については省略

事務局	(議事1の内容について説明)
委員	統計解析について、重回帰分析を使用することが正しいのか確認したい。順序尺度および名義尺度の変数を目的変数として設定しているが、重回帰分析が使用できるのは、比例尺度と間隔尺度であるため、重回帰分析を使用できる条件に当てはまっていないと考える。もし、名義尺度を取り扱う場合は、二項ロジスティクス回帰分析を、順序尺度を取り扱う場合は順序ロジスティクス回帰分析のどちらかを使用することが望まれるのではないかと。また、多重共線性は確認しているか。
事務局	多重共線性は確認しており、多重共線性の傾向が見られる変数は除いたうえで分析を実施している。
委員	調整した寄与率はチェックしているか。サンプル数に関しても、因子は1/10程度が適切とされている。
事務局	全体のモデルにおいては調整済み決定係数をチェックしている。また、各項目の寄与率についても標準偏回帰係数によって確認している。また本アンケートは、サンプル数が1,000人程度あるなかで、説明変数は50程度となっているため、因子数の適切性も確保していると考えている。
委員	また、男女や年齢などで偏りがあると推測しているが、補正や男性のみ女性のみをピックアップすることによる分析を実施しているのか。
事務局	実施している。性別や年齢を0と1のダミーデータに変換したうえでコントロール変数として加えて分析を行っている。
委員	であればやはり重回帰分析が気になる。あまり結果は変わらないと推察しているが、ロジスティクス回帰分析の方が適切ではないか。
事務局	重回帰分析については、名義尺度および順序尺度の変数など各項目のデータは適宜調整したうえで分析を実施しているため、ロジスティクス回帰分析のような手法に結果的になっている分析も多くある。そのなかで、説明を容易にするために重回帰分析として説明している部分はある。
委員	承知した。

会	長	高校生アンケートについて気になった箇所としては、女子学生による今治市への満足度および推奨度が低く、早く市外に出ていきたいという結果になっている。その要因を分析するため、【資料 2】12 ページにある「今治市に定住したい理由/今治市から移転したい理由」については、男女別で記載する方がより良いのではないかと。もし【資料 2】に記載していないだけで、実際は分析を実施しているのであれば、分析結果を共有していただきたい。	
事	務	局	【資料 2】は概要版であり、男女別の「今治市に定住したい理由/今治市から移転したい理由」については記載していないが、実際の分析は完了しており、詳細版に記載している。詳細版については準備ができ次第、市のホームページに公表させていただく予定である。
会	長	いずれの地域においても、10 代、20 代の女性は大変貴重であるため、これらの年代の女性において今治市を離れたいという意見が多いのは大変由々しき事態である。10 代、20 代の女性に今治市を離れないでいただくために、どのように対策を立てていくかが非常に重要であると考えている。 それでは次の議題に移らせていただく。2 つ目の議事である「今治市総合計画の将来都市像の検討状況について」事務局よりご説明いただきたい。	
事	務	局	(議事 2 の内容について説明)
会	長	それでは、委員の皆様からご意見をお伺いしたい。基本的には、【資料 3】の 10 ページ「将来都市像の軸となる考え方」における、4 つの軸についてご意見いただきたい。	
委	員	資料に記載している意見は、全て今治市内から得られた意見だと推測しているが、市内に居る方たちは、今治市のことを客観的に分らないと考えている。今治市の本当の魅力は市外の方がより分かるのではないかと。 また、松山市のように 40 万人～50 万人の市民がいる地域では、生涯を松山市で暮らしていく方が多い。他方で、今治市は 10 万人程度の規模であるため、市内で経済的に自立することが難しく、これまでも造船などの産業において市外から収入を確保してきた歴史がある。 アンケートを実施するのはよいが、今治市の地域性を考慮し、バイアスを調整した意見、外からみた今治市を含めていただきたい。特に、今治市は瀬戸内海を中心にある地理的状況から、四国のなかでも新幹線が近く非常に利便性の高い地域である。このような、市外から見た今治市を含めることで、より今治らしい将来都市像ができると考える。	

事務局	貴重なご意見で、我々も、市外からの意見が不足していると感じた。市外の意見を集めることは可能なのか、また、どのような手法で市外から意見を収集することができるのかについて、検討させていただきたい。
会長	市外からの意見を得ることは可能だと考える。私も、先ほど委員からご指摘いただいた箇所は極めて重要だと考える。将来都市像の軸における、「世界に誇れる今治らしい強みや魅力を醸成し発信するまち」に関連するご意見だと推測しているが、ご意見を踏まえて、「将来都市像の軸となる考え方」は4つだけの設定でよいのか、もう一つ新たに軸を設ける必要があるのかを検討すべきである。他にご意見あるか。
委員	アンケートでは、島しょ部の満足度が低いという記載がある。この点について私自身、残念に感じる一方で、アンケート結果の通りだと納得する部分もある。合併してから20年、旧今治市に居住している市民の生活はほとんど変化がない。他方で島しょ部では、銀行やスーパーが撤退し、人口が減少し、空き家が増加し、バスも減便となり、公共交通機関が不便になったことで、島しょ部市民の生活は激変した。 そのため、現実としてこのアンケート結果は仕方がないと考える一方で、アンケート結果から、しまなみ海道の美しい景観を非常に評価いただいていることも分かる。今よりさらに、しまなみ海道の良さを具体的に将来都市像として表すことはできないか。教育関連では「日本一美味しい給食」という言葉で魅力を打ち出しているが、しまなみ海道においても例えば、「日本一景観の美しいしまなみ海道」など、よりインパクトのある言葉で打ち出してほしい。 またアンケート結果において、子育て支援は非常に高い重要度を示しているが、若い女性が島の外部に転出しているなかで、どのように子育て支援の重要度をアピールできるかを考えてほしい。例えば、「日本一子育て支援が充実しているまち」などがあるが、子育て支援のなかでも特にこの箇所は日本一だとアピールできるものがあればなお良い。島しょ部は人口が減少するにつれ、学校の統廃合が進んでおり、学校が減少しすぎると、若い女性はより居住しづらくなると考えている。若い女性が島しょ部に居住いただくためにも、子育て支援 No.1 など、子育て支援をアピールできるようなキーワードを記載してほしい。 今治市には世界一の企業が多数ある。また、今治市でしか製造していない工業製品もある。このような今治市の魅力を具体的に言葉でアピールすべきだと考える。
事務局	フレーズのキーワードとして、しまなみ海道に関するインパクトのある言

	葉や、「子育て支援 No. 1」など事務局として視点が欠けているフレーズもあったため、将来都市像のキーワードに活かせるようご意見として集約させていただく。
会 長	11 ページにおける「将来都市像のフレーズの検討に用いるキーワード」では、様々なキーワードを記載しているが、子育てについてのキーワードがない。「子育てしやすい」と感じてもらうためには、単純に医療補助などの制度上だけでなく、どのような条件が最も重要なのかを明らかにすることが肝要だと考える。 子育てにおいて最も重要な条件は、地域により変化する。私が以前暮らしていた大阪では、子育ては各家庭で行うものという文化が浸透しており、地域や近隣に子育てで頼ることはなかった。大阪のような都会では、このような子育てしかできないが、今治市だからこそできる、情緒の共有などの子育てのメリットがある。このような今治市だからこそできる子育てのメリットを抽出し、子育てについて重層的に考えることで、女子高生など若い世代の方たちにも、今治市で子育てがしたいと感じていただけるようになるのではないかと考える。他にご意見あるか。
委 員	「将来都市像の軸」について、どの自治体でも、資料に記載しているような軸の文言に落ち着いてしまうのではないかと懸念している。将来を描くために、今後今治市としてどのような路線で今治市の将来を描くのかを考慮して、軸を設定すべきである。例えば、今治市は自然の魅力があるため観光業に力を入れていくなど、どこに力を入れていくのかを明らかにした将来都市像の軸とすることで、より今治らしさを押し出したメッセージになるのではないかと考える。
事 務 局	将来都市像に関しては、総合計画の入り口の部分であり、本来総合計画において重要になるのは、人口減少の状況下において今治市としてどういった施策を打ち出していくのかであると考えている。最初にフレーズを定めるとその後の施策を打ち出す際に、軸がぶれてしまう原因になるため、はじめに今治市として何を実施していくべきなのかを精査するための基盤となる軸を設定することが肝要であると考えている。
会 長	どのような施策を打ち出していくかに関しては、トップダウンとボトムアップの両視点が必要であると感じている。資料に記載している将来都市像の軸については、委員のご意見の通りどこの自治体でも当てはまるような内容になっているという点は、他の委員の皆様も感じている部分ではあると考えているが、致し方ない部分も大いにある。今回事務局からご提案いただいた将来都市像における4つの軸は、現在今治市に居住している方々が満足でき

	るように、今治市をどのようにしていくべきかを思案して作成いただいたものであると推察している。そのため当審議会においては、将来どこに力点を置いて今治市を発展させていくか、そもそもこういった視点が重要であるかなどという意見を委員の皆様からいただきたい。これらの意見を踏まえ、次回の審議会の場合までには、新たに軸が設けられているか、もしくは軸から連想されるキーワードがより具体的になるなど、将来都市像を事務局にてアップデートいただけたらと考えている。
委員	本日の議論は、これまでの基礎データや市民アンケートの結果から、どのようなまちに若い人々が住みたいと感じているのかを把握したうえで、今後どのようなまちにしていきたいという将来像を大枠で決める段階の議論であると理解している。そのため現時点では、ある程度ぼんやりした聞こえのよいフレーズやキーワードになってしまうのは致し方ないと考えている。 基礎調査結果から若年層や女性の転出が多いことを踏まえて、今後どのようにこれらの現状や課題を打破していくのか、という総合計画で最も重要な部分はこれから議論していくことになると考えている。
会長	事務局への期待が大きいということを理解した。他にご意見あるか。
委員	農業の立場から、今治市の食文化についての記載がないのが気になる。各地域の特産物などの食文化は、市での生活にとって非常に重要な部分であるため、もう少し、食文化については踏み込んで記載してほしい。
委員	非常に良い意見であり、このような意見が本日の議論内容として非常に重要だと考えている。
委員	子育てについてそこまで問題を感じたことはなかった。さらに今治市では、東京都のように子どもを幼稚園に入れることができないということもないことから、具体的に子育てで何が不足しているのかを知りたい。 また、女性の転出に関しては、女性は男性よりも外部の世界に対する憧れが強いかもしれない。さらに地方においては、男性に比べて女性が住みづらく感じてしまう部分もあるかもしれない。そのため市外に出れば自分の世界を確保できるのではないかという希望を求めている可能性があると考えている。他方で市外に転出して女性が結婚した後は、生活環境や景観、食事や子育てのしやすさなどについて、今治市に対して感じる内容も変化し、戻ってきていただける可能性も大いにある、非常に流動的な憧れであるとも考えている。 観光に関しては、サイクリングや景観が良いという部分の打ち出しだけで

	は詰めが甘いと感じている。大三島の大山祇神社など、欧州の方をはじめとした海外の方々は歴史が好きな方も多いことから、今治市の歴史的な景観をよりアカデミックな面からアピールしてもよいのではないか。ガイドに関しても、英語・中国語・フランス語で対応できるようにすべきだと考えている。 「SHOGUN」という小説がベストセラーになっており、また映画化もされ、海外で非常に高い評価をされていることから、海外の方々が歴史に関心が高いことが分かる。そのため、歴史などのアカデミックな面からの観光施策を考えることも重要だと感じている。 また他の委員のご意見の通り、市内の方々の意見ばかりを収集しても自己満足に終わってしまうため、市外の方の意見も取り入れるべきである。
会 長	私も女性の問題は非常に大きいと考える。他にご意見あるか。
委 員	市外からの意見を伺った方がよいというご意見があったが、今治への居住経験がない方からの意見ではなく、元今治市民の方々の意見を調査すべきだと考えている。今治市長も実施している「いまばりの集い」をはじめとした、今治市の関係人口の方たちが持つ意見を調査すべきだと感じている。他方で、元今治市民の方々の意見を伺う場合であっても、現在今治市と同程度の人口規模である自治体に居住している方の意見でなければ、参考にならないと推測しているため、どのような方の意見を伺うかは注意すべきである。 また、今治商工会議所青年部においても、鳴門商工会議所青年部が今治市にサイクリングに訪れるなど、他地域の方々との交流が広がっているなかで、他地域の方々から「今治は魅力が盛りだくさんですね」との意見をいただくこともある。このように他地域の方々が感じている魅力を活かしつつ、雇用を確保できるかが最重要課題になると推測してはいるが、どのようにすれば市内の人々または移住者が今治市に定住するのかを考えて、将来都市像のキーワードに盛り込んでほしい。
会 長	地域資源を上手く産業化していく視点が重要であるというご意見をいただいた。他にご意見あるか。
委 員	アンケート結果における、今治市への定住意向が7割程度（どちらともいえないを含む）というのは、一般的に高い数値なのか。また、女子高校生の移転したい割合が4割程度というのも、一般的に高い数値なのか知りたい。
事 務 局	定住意向に関して、今治市におけるアンケート結果のように男子高校生と女子高校生の間で如実に差が出るのは、やや特異な例である。また先般の議論にてご意見いただいております、男女別での、移転したい理由のデータ

		も手元にあるため、共有させていただく。転出したい理由に関して、男子高校生と女子高校生の間で差異がある項目としては、「買い物の利便性が悪い」、「余暇やレジャーの場が少ない」といった理由が挙げられている。
会	長	女子高校生の方々の視点で、お母さんや知り合いがいきいきと楽しそうに今治市で生活しているように映れば、今治市に残りたいという気持ちも芽生えるかもしれないが、現実的にはそうでないと推測している。地方では、自治会においてもメンバー構成は男性が多い状況等、まだ女性が活躍しにくい雰囲気である。高校生の段階から、これだけ男女に差が出る環境を目の当たりにしてしまうという点については、我々大人がこれまで男女差を許容するような地域の風土や環境を醸成してきた結果であると感じている。そのため、我々の意識も変えていく必要があると考えている。他にご意見あるか。
委	員	愛媛県外の方に今治市の良さを聞くと、気候の良さ、災害の少なさなど、自然の良さをよく挙げられている。このような自然や気候の良さをよりアピールすべきだと考えている。毎朝の雪かきに苦難を感じ、今治市へ移転する方もいる。今治市民は、天気が素晴らしいことは当たり前のことだと感じているが、市外の方の視点に立てば、天気や気候が良いという点は非常に重要な要素である。 子育てに関しても、今治市は不自由のない素晴らしいまちである。これらのことから、より素直に今治の良い面をアピールすべきだと考えている。
委	員	私も委員の意見はまさにその通りだと感じた。今治市では、毎朝雪かきをする必要もなく、子育てもしやすい。 私が東京に出張に行った際に、妊婦の女性が約2歳の子どもを連れて電車に乗り、隣駅の病院まで向かっている様子を見た。一方今治市では、車に子どもを乗せて、ほとんど歩いたりせずに病院まで行くことができる。これらのことから私は「今治市の子育てが充実していない」と言われているのは疑問であり、具体的に子育てのどこが充実していないかを知りたい。
会	長	推測ではあるが、子育て関連の施設数などから、「子育てが充実していない」という判断になるのかもしれない。
委	員	子育てや自然、気候の良さに関して、私も委員と同意見である。 今治市では朝に雪かきをする必要がないため非常に快適である。一方で、島しょ部に暮らしている方は、島から旧今治市内の高校に通うとなれば、時間とお金がかかると訴えていた。若い方々にとっては、進学のことを思案する際には、時間とお金のことを考慮し、旧今治市内に住んだ方がよいという

		結論になることも理解できる。中学校からは距離が遠くなるためバス通学となり、有事の際にもなかなか迎えに行くことができない。高校に行くとさらに時間とお金もかかる。通学で朝6時30分のバスに乗車するなど、子育てに関しては、島しょ部特有の事情もある。 またこちらのフレーズに、教育に関するフレーズがないのが気になる。学校教育の充実というワードをキーワードに入れていただきたい。「ふるさとへの誇りを育て」のキーワードに含まれるものだと推測しているが、若い人が「今治に行けば良い学校教育が受けられる」と感じるようなキーワードがあると良いと考えている。学校教育で、今治には世界一の企業が多数あるなど、教育を通して今治市の良さを子どもたちに伝えることで、子どもたちが今治市に誇りを持ち、子どもたちが今治市に帰ってきたいと感じるようになるのではないかな。
会	長	私も学校教育でより今治の良さを伝えるのは大事だと考える。
委	員	母親は、その地域の教育が良ければ、その地域が不便であっても子どものためにその地域に居住するものだと考えている。 秋田県のある高校で「全英語教育」を実施しているのをYouTubeで拝見した。このような取り組みは非常に分かりやすく魅力があると感じている。教育として英語のレベルが高いことによって、その自治体は非常に特徴のあるまちとなる。また、今治市の基幹産業である海運会社では英語を使用することからも、今治市では英語教育を受けた先に、海運会社で就職することによって英語を活かすことができる。このような特徴やビジョンをもっと打ち出していくべきではないかな。
会	長	教育の話は非常に重要である。愛媛県内に大学も設置されているため、大学教育までを愛媛県内で受けられる点は大きな魅力であると感じている。 また、今治市は外国人が多い地域であるが、外国人の方が住みやすいと感じる環境を作ること、外国人の方々もさらに増加すると考えている。このような多様性の支援を積極的に実施していくことは、愛媛県内でも今治市しか実施できないことであると感じている。これらのことから、英語教育と多様性の尊重というのは非常に重要な視点だと考える。他にご意見あるかな。
委	員	今治市は、人との関わりの親密さや、時間の流れがゆっくりしている点に魅力を感じる。そのためこのような、今治市にあって都会など他の地域にはない魅力をアピールできるキーワードがあればよいと考えている。
会	長	人と関わるができるという点が都会にはない魅力であると私も感じ

		ている。キーワードについて非常に多数の意見をいただいたため、次回の資料作りに反映していただきたい。 続いて、(3)今治市総合計画の施策体系の検討状況について、ご報告いただきたい。
事務局		(議事3の内容について説明)
会長		施策体系のまとめ方についての報告であったが、具体的な内容については今後精査していくということで理解した。3ページの「現行計画 施策体系図」の整理①、②、③を踏まえて、4ページの「施策体系の全体像のイメージ(案)」のように施策体系をまとめていきたいとのことだが、委員の皆様からこの点についてご意見あるか。 また資料内に、「KPI や KGI を設定」という記載があるが、KPI や KGI にフォーカスしすぎると、定量的な議論ばかりになり、定性的な視点を見落とす危険があるため、KPI や KGI を設定して問題ないのかと感じている。KPI や KGI のような定量的な視点も重要なのは承知しているが、KPI や KGI 以外の視点も盛り込んでいく必要があると感じている。
事務局		今治市役所のこれまでの傾向として、計画を立てる際に数値目標を立てることを軽視してきた経緯がある。しかしながらやはり、数値目標を立てることは非常に重要だと考えているため、新たな総合計画においても KPI や KGI として数値目標を設定することにチャレンジしていきたい。
会長		ぜひ頑張ってください。
委員		数値目標を設定することは、民間企業の間では既に流行は終了した古い考え方となっている。数値目標を設定することで、数値のみを追い求め、定性的な視点が伴っていないというような状況になることが多いためである。ぼんやりした目標を設定し、そこからどのように実態が育つかが重要である。実際、数値目標の設定を廃止した銀行もある。数値目標がなくても成り立つ組織を構築することが重要なのではないか。
会長		大学でも KPI や KGI が設定されており、評価や給与を向上させることを目的として、KPI や KGI などの数値目標を達成するために論文を書かねばならないという実態がある。一方で大学では、行政の審議会や委員会に参加することが評価されないため、大学教員がそれらの審議会や委員会に参加しないことが多い。市役所の皆様も、数値目標を設定するのみではなく、実態として実施する施策が効果的な施策になるように気をつけて目標を設定いただ

		きたい。
事 務 局		KPI や KGI 設定について、現時点では、施策体系のどの階層にどのような KPI や KGI を設定するのか、という具体的な点については議論中であるため、今回いただいたご意見を踏まえ今後議論していきたい。また、数値目標を定めることで、数値目標ばかりを追い求めてしまう危険性があることは重々承知しているため、単に数値のみが目標にならないよう気を付けていく。 ただ、現状の今治市においては、明確な目標がなく、評価自体ができない状況で施策を進めている一面もあるため、施策の評価ができるように、定量および定性の両観点から目標を設定したいという目的意識がある。今後、具体的な目標設定に関しては、本日の意見を踏まえたうえで、検討していく。
委 員		ぜひ施策の指標を定める際には、定量化できる箇所は定量化していただくとともに、定性的なところは排除せず、将来に向けて市民の方々が心躍るような要素を可能な限り必ず含んでほしい。心が躍ると人はやる気になる。総合計画の施策は、職員だけで実施するものではなく、市民の皆様を巻き込んで実施していくものであると考えている。
会 長		非常に重要な視点であると考えている。市役所だけで計画や施策を進めていくのではないということをどれだけ総合計画に盛り込めるかが肝要となると考えている。このような行政計画では、市役所や県庁が主語になるケースが多いが、市民が真ん中課として、「市民の方とともに協力しなければ達成できない」という目標を立てることができるかが非常に重要である。
委 員		資料において、施策体系が非常に整理されていると感じる一方で、堅い部分のみの記載になっている。より柔らかい部分を盛り込むことはできないだろうか。例えば食生活、食材、気候、住みやすさのような魅力というのは柔らかい部分に該当すると考えている。
事 務 局		食生活、食材、気候、住みやすさのような部分は、本日いただいた将来都市像のキーワードに盛り込んでいく想定である。
委 員		食や気候などについては、将来都市像のキーワードだけでなく、資料4における施策の大綱に含んでもよいのではないか、という黒田委員からのご意見であったかと思われる。
事 務 局		承知した。将来都市像の軸だけでなく、施策の大綱についても、いただいたご意見を考慮しながらより良いものにしていきたいと考えている。

委 員	人	人は、制度などの難しい部分ではなく、食や気候などの柔らかい部分を端緒として住みやすさや魅力を感じると考えている。
会 長	長	他にご意見ないか。 以上のご意見踏まえて、施策体系を更新していただきたい。続いて、今治市の人口ビジョン（案）についてご報告いただきたい。
事 務 局	局	（議事４の内容について説明）
会 長	長	今治市人口ビジョン（案）についてご意見あるか。
委 員	員	４ページの社会動態人口のグラフについて、2012 年だけ社会増加数が突出しているのはなぜか。
事 務 局	局	2012 年より外国人人口が社会増加数に含んで社会動態を算出しているためである。
委 員	員	2018 年頃から加計学園生徒の流入があったのではないか。
事 務 局	局	ご認識の通りではあるが、加計学園生徒の流入により、それほど社会増減の改善にはつながっていない結果となっている。
会 長	長	人口ビジョンについては、独自推計する場合は、独自推計数値が正しいかどうかを確認する必要があると考えているため、ぜひ委員の皆様からフィードバックしていただきたい。 では続いて、今後の開催予定についてご報告いただきたい。
事 務 局	局	（議事５の内容について説明）
会 長	長	全体として他にご意見あるか。
委 員	員	【資料１】について、転出者アンケートは実施しているようであるが、転入者へのアンケートは実施しているのか。実施しているのであれば、転入理由などを参考にしているのか。
事 務 局	局	転入者のアンケートも実施しており、転入理由などを参考にしている。
委 員	員	【資料３】における今治市総合計画の将来都市像の軸に、市外に居住して

事務局	いる方の意見を取り入れて、反映させることは可能なのか、また反映させる機会はあるのか。 事務局としても、外部から見た意見の優位性という点については欠けていた視点であったため、市外居住者意見を反映させられるよう前向きに検討させていただきたい。
会長	第3回までに、本日いただいた意見を取りまとめたうえで、反映した将来都市像の素案をまとめていただければよいと考えている。
委員	このまま総合計画の作成を進めると、今治市では堅い総合計画ができる想定ではあるが、何かわくわくするような、心が躍るような総合計画の事例があれば知りたい。
会長	あまりに堅くない総合計画を作成すると、庁内や市民の間で参照されなくなってしまうことがあるため、堅い総合計画を作成する自治体が多い。ある自治体の都市計画マスタープランの作成に関与した際に、堅くない計画が完成された一方で、あまりに表現が砕けすぎており、庁内で参照されなくなってしまう作成し直したという事例もあるため、堅さと「わくわく」のバランスを見極めながらご作成いただきたい。
委員	子育てに関して、家庭を持つ前（未婚）の若い市民やパートナーを探す段階の市民に向けた施策も考慮していただきたい。
会長	出会いの場をどのように作っていくのかも非常に重要な視点だと考えている。
委員	子育てと人口はどちらも重要だと考えている。人口について議論するなかで、今治市が目指す方向性を明確にすることが重要であると感じている。日本人を増加させるのか、多数の外国人に移住いただければよいのか、高齢者の方でも今治市に帰ってきていただければよいのかなど、具体的に人口増加に向けた施策のうちどこに重点を置くのかを明確にすることは、政策を実行するうえで必要であると考えている。子育てがしやすい点をアピールして今治市への移住につなげるのか、今治市民の婚姻率や出生率を高めるのかなど、限りある予算のなかでどこにアプローチをかけ何を重点的に実施するかが分かりづらい。データを多数収集いただいているが、具体的にどのようなアクションにつなげるのかを把握できなかった。 また、人口減少に対して観光施策を打ち出していく際も、焼豚玉子飯や焼

会 長	き鳥、海産物、名所など、今治市民に愛されているものをコンテンツとして提供しなければ、観光客にも受容されず成功しないと考えている。 今後、庁内で様々なヒアリングを実施していただけると推測しているため、施策のなかでどこに重点を置くかなど、上手く強弱を付けていただきたい。
事 務 局	本日いただいたご意見を踏まえた資料の洗い直しから始め、次回の審議会ではさらに議論の深まる資料を作りたいと考えている。引き続きよろしくお願いしたい。